

26. 手洗技法における洗浄力とエネルギー代謝 について

高知大教育 西村 久子

1. 前回に引続き手洗技法においてその洗濯効果の総合的優劣比較を知るためその洗濯作業時の作業強度と洗浄率との関係につき考察を行い能率的洗濯方法の一端を知り得たので報告する。

2. 被験者は大体、体格、年齢、経験等相似た成年女子3名ないし5名をえらんだ。洗浄力測定は標準人工木綿汚染布による常法により行い、作業強度はその作業時に必要な酸素消費量及びエネルギー代謝率にてあらわし、そのための呼気分析は労研式ガス分析器を使用した。

3. ①手洗技法のうち手もみ洗い、つかみ洗い、はけ洗いをうい洗濯時間2分、5分、10分とし被験者3名によって行った結果この範囲内において洗浄力の増加に比べ1分当り酸素消費量の増加量は少い。

② 手もみ洗いにおいて洗濯時間を一定にして荷重を1:3:5とした結果洗浄率の減少するに比べ酸素消費量増加の状態は大である。

③ 洗濯機使用と手洗使用の一連の洗濯において荷重の少ない場合はその洗浄率とエネルギー代謝率の両方から考察した結果その効果に余り差がないが荷重が大になるとその差は大となる。